

患者様から見て日本一の病院をモットーに。



公益財団法人 慈愛会 今村病院分院

じあいのとびら

NEWS & TOPICS

新病院建設工事のお知らせ

- 帆北副院長 ラジオ出演
MBC「ここが聞きたい!ドクタートーク」テーマ“胃がん”
- 「患者さま図書室」のご案内
- 七波クリニック移転オープン

2015 SPRING

春号



新病院の 建設工事が始まります

今村病院分院は平成27年3月より
新病院建設のための工事を本格的に開始致します。

新病院は平成29年の開院を目指して、隣接する2つのビル(鴨池新町ビル・鴨池ニュータウンビル)の跡地に建設を進めて参ります。

新病院は地域の医療ニーズや時代の変化に対応するために、新しい診療科も加え現在の病院より大規模の病院となる予定です。今まで以上に救急医療と専門医療を充実させ、急性期総合型病院としての機能を果たせるように努めます。新病院は新しく、かつ大きくなるだけでなく、すべての患者様へ配慮した作りで、安心・安全でどなたでも快適にご利用いただけるような病院の建設を心がけて参ります。

患者様やご家族の皆様には、既存のビルの解体や新病院建築のための騒音や駐車場の移動など長期にわたり何かとご不便とご迷惑をおかけ致しますが、何卒ご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

新病院建設工事に伴うお知らせにつきましては、病院内での掲示や患者様向けの広報誌「じあいのとびら」にて随時ご案内させていただきます。ご不明な点やお気づきのことなどございましたら、お気軽に当院のスタッフにお尋ねいただければ幸いです。

当院は地域の皆様に愛される病院として、これから今まで以上に大きく成長して参ります。

ご迷惑をおかけ致しますが、新病院の建設をどうか温かく見守っていただけますようお願い申し上げます。

公益財団法人慈愛会 今村病院分院
院長 宇都宮 興

新病院
完成
予想図



慈愛会 今村病院分院

診療科の紹介

外科・ 消化器外科



外科は2014年3月まで今村病院にて診療を行ってまいりましたが、2017年に400床規模の新病棟建設に伴う今村病院と今村病院分院の機能統合の一環として今村病院分院外科・消化器外科が2014年4月に本格的に診療を開始いたしました。手術室の増設・3D内視鏡等最新の手術器具・ICUの新設・病棟の確保等ハード面を充実していただきました。ソフト面でも今村病院から外科に関連する多職種(手術室・ICU・病棟・外来・薬剤師・栄養士等)のスタッフが一緒に移動してくれました。外科・消化器外科の立ち上げには2013年10月から約6月間の準備期間がありこの約1年間は大きな問題もなく診療を安全に行うことができました。

当科の特徴は各臓器の癌治療ガイドラインに基づいた外科手術(さらに一歩進んだアプローチとしての鏡視下手術)と抗癌剤治療を行っています。4月~12月までの手術件数の詳細は別表のごとくですが全手術例数は434例の手術を施行いたしました。全身麻酔384例(396件 重複例を含む)中229件が鏡視下手術で、大腸切除・胆嚢摘出術・胃切除・ヘルニア等幅広い領域で鏡視下手術を行っております。また悪性疾患の手術症例は155件でした。

2000年以降の抗癌剤治療の進歩は特に目覚ましいものがあり、抗癌剤治療が第一選択となる症例も増えております。固形癌に対する化学療法は外来化学療法が主流になってきています。今村病院では2007年1月に外来化学療法室を新設しまして、外科は月平均40例程度の外来化学療法を行ってまいりました。2014年12月にOPENした今村病院新棟「ウェルネスじあいの」2階フロアはすべて外来化学療法室です。分院では外科のベット数が限られていますので点滴等での抗癌剤治療は現在今村病院で行い、内服での術後補助化学療法等は今村病院分院の外来にて行っております。

今村病院分院はERがあり、救急搬送される患者さんの中で消化器関連の疾患に対して消化器内科・外科とのより緊密な連携が必要で、穿孔・出血・炎症等緊急手術の件数も増加傾向です。

今村病院分院には現在5名(帆北修一、中馬 豊、中島 三郎、衣斐勝彦、大迫祐作)が常勤として勤務しております。外科・消化器の学会専門医・指導医を取得しており、認定施設でもあります。診療と同時に教育も行い、学会発表・多施設共同研究等の臨床研究も行っています。

2017年に新病棟が完成しますと総合的な癌治療・急性期医療がさらに充実したものになると期待しております。

全手術件数 / 434例 (2014年4月~12月)
全身麻酔 / 384例、396件 (重複例を含む)
(鏡視下手術 229件)

I. 頸胸部(甲状腺・乳房) / 43件
悪性 / 38件 良性 / 5件
II. 胃・十二指腸 / 39件 (18件)
悪性 / 33件 (18件) 良性 / 6件
III. 小腸・大腸 / 157件 (101件)
悪性 77件 / (64件) 良性 / 80件 (37件)
IV. 肝胆膵脾 / 103件 (91件)
悪性 / 7件 (2件) 良性 / 96件 (88件)
V. 鼠径・大腿・臍・腹壁癒痕ヘルニア / 41件 (15件)
VI. 頸部・腋・腹腔内リンパ節生検 / 13件 (4件)
VII. 腰麻・局麻 / 50件

当院の帆北修一副院長が出演します

「ここが聞きたい! ドクタートーク」 MBCラジオ AM1107kHz / FM92.8MHz

MBCラジオ「ここが聞きたい! ドクタートーク」3月放送分に、当院の帆北修一副院長が「胃がん」のテーマで出演します。毎週土曜日あさ9:10~9:15、毎週水曜日ひる12:55~13:00(再放送)、計4回の特集です。胃がんの症状や治療法など、さまざまな疑問や不安にお答えします。皆さんぜひお聞きください。

- 【第1回】 3月 7日(土) テーマ「胃がんの要因」 再放送 / 3月11日(水)
- 【第2回】 3月14日(土) テーマ「胃がんの症状・検査」 再放送 / 3月18日(水)
- 【第3回】 3月21日(土) テーマ「胃がんの治療」 再放送 / 3月25日(水)
- 【第4回】 3月28日(土) テーマ「胃がん治療後の生活」 再放送 / 4月 1日(水)



パーソナリティの二見いすずさんと帆北副院長



今村病院分院 看護部のスペシャリストたち

Vol.01

がん化学療法看護認定看護師

小波津 武志 (血液内科専門外来)

Kohatsu Takeshi

**「がん化学療法看護認定看護師」は、
患者さまやご家族が、がん化学療法について
よりよく理解できるよう活動し、
安全を守ることを使命としています。**



がん化学療法は、治療法自体が難解です。さまざまな治療法のうち、どれを選択するかは、患者さま・ご家族が内容を十分に理解し納得することが不可欠です。そこで、インフォームド・コンセントにおいて専門的知識を持った看護師の役割が重要となります。「がん化学療法看護認定看護師」は、患者さまが治療法としてがん化学療法を選択する際のサポートや、がん化学療法の治療期、その後の経過観察の時期における看護を専門とし、抗がん剤が安全に使用できるような体制づくりと看護を行います。

私は平成13年から今村病院分院で勤務しています。病棟や外来で、がん化学療法を受ける患者さまやご家族にかかわる中で「私の行っている看護が正しいのか?」「患者さまやご家族を支えるケアとは何か?」という疑問を抱くようになり、疑問を解決するために、認定看護師資格を取りたいという気持ちが湧いてきました。専門的知識・手技を学ぶためには、職場を長く離れて外部の研修・講義を受けなくてはなりませんでした。分院看護部の温かい声援の中、送り出していただいたので、学習に集中することができました。

平成21年に鹿児島県の「がん看護における質の高い看護師育成事業」研修を全4か月間受講。平成25年6～11月には、久留米大学認定看護師教育センターでがん化学療法看護について学び、平成26年6月「がん化学療法看護認定看護師」資格を取得しました。



これから、がん化学療法を受ける患者さまやご家族を支えるいわゆる「縁の下の存在」になりたいと考えています。「認定看護師がいて良かった。安心できた」ではなく、さりげなく関わられるようになりたいです。病院内の活動についても、気軽に声を掛けてもらえるような「がん化学療法看護認定看護師」になりたいと考えています。

Question?

認定看護師 (Certified Nurse) とは?

日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者。水準の高い看護実践を通して、看護ケアの広がりや質の向上を図り、看護職に対する指導・相談活動を行う。認定看護分野は現在、「皮膚・排泄ケア」「感染管理」「糖尿病看護」など21分野。

認定看護師を目指すには、日本の保健師、助産師及び看護師のいずれかの免許と、実務研修5年以上(うち3年以上は認定看護分野の実務研修)が必要。それらを満たした上で認定看護師教育機関(2014年現在、全国60施設)にて認定看護分野に応じた認定看護師教育課程(6カ月・615時間以上)を修了し、認定審査(筆記試験)に合格すると、認定看護師認定証が交付され、認定看護師として登録される。



essay 職員エッセイ



定期便に思うこと

今村病院分院 医師 古田 茂

今年も患者さんからの年賀状が何枚か届きました。

その中には忘れられない患者さん(Nさん)からの定期便が含まれています。

Nさんとの出会いは36年前です。鹿児島で最初に主治医となった上顎腫瘍の主婦の方です。治療方法は放射線治療、化学療法と局所治療の三者併用療法でした。入院中は毎日の局所清拭の痛みを耐えておられました。当時の治療法では、再発することが多く、Nさんも発症後10年の間に局所再発のため、鹿児島や私の転勤先の病院で合計7回ほど手術を行いました。最終的には顔面に皮膚欠損を残し、放射線による白内障を併発する状態で寛解しました。さらに10年間は外来にて経過観察をしていましたが、20年の間にはNさんの周囲にも色々な不幸な出来事がありました。最初は長男さんの突然の死です。また、ご主人も病気でお亡くなりになっています。診察の折、「なぜ癌に侵された自分より早く、みんな逝ってしまうのか」と悩んでいたのを思い浮かべます。しかしNさんは家族の思いによって自分が生かされていると感じていたようです。私が鹿児島を離れてからは年賀状のやり取りが続いています。その中には「元気でやっています」と力強く書かれてあります。正月には時々電話が掛ってきますが、やはり実際の声を聴くと安堵感が訪れます。いつまでもお元気で願うばかりです。

Nさんとの触れ合いの中で、私は患者さんの生きようとする希望を持ち続けることによって、例えば癌であっても「病気との共生」は可能であるとの教訓を教えられました。そのため私は「病気があっても健康な状態」を目標に診療に当たるようになりました。今後、何年このようなやり取りが続くかわかりませんが、お互い元気なうちは続けていきたいと思えます。Nさんは私の医師としての歩みを感じさせてくれた患者さんです。

患者さまと共に過ごすことで生まれたもの

今村病院分院 看護師 迫田 澤奈

私が学生の頃に受け持たせて頂いた患者さまは、主疾患により合併症を起こしており、視力はほぼ見えておらず、歩行はできるが歩いている感覚もほとんどない状態でした。ご家族とも疎遠関係にある患者さまで、年齢も父に近いこともあり関わっていくうえで戸惑いを感じ、この患者さまに私は何をしてあげられるのだろうかと考えた時に何も出来ないのではないかと感じてしまい、自分の中で患者さまに対して距離をとってしまっていました。毎日、挨拶・検温の時しか関わりを持たなくなってしまいコミュニケーションも図れていない状況でした。そんな時、患者さまからの何気ない質問が私と患者さまの距離を近づけてくださいました。それは、「迫田さんは何歳?」とどこにでもある質問で、ここから患者さまとの距離が近づきました。患者さまの息子さんと年が近いこともあり、そこから私を自分の子供のように可愛がってくださり、時には家族のことを話しながら涙を流し、何気ない会話を今まで出来なかった分たくさんして段々と患者さまとの距離が近づきました。他の看護師にも言っていないようなことを私に話してくれました。

視力も低下して私の顔すら見えていないのに、私が挨拶しただけで「迫田さんだ。今日も僕のところに来てくれたんだね、ありがとう。あなたと話していると元気になるよ。あなたの笑顔はきっと素敵だろうな。僕の目が見えたらね」と笑顔で言ってくださり、とても嬉しく思い私は患者さまの為に何かできることはないか探しました。私が出来ることといったら、患者さまのそばに居て同じ時間を過ごし、同じ気持ちを共有することでした。これが私にできる患者さまに寄り添う看護だと思い、同じ時間を共有することで少しでも患者さまの気持ちが分かる気がして、私にとってプラスになることばかりで、学ぶことも多かったです。

患者さまと喜んだり、悲しんだり、辛い思いをしたり、笑ったり、という気持ちを同じ空間で共有することで、信頼関係も生まれてきます。信頼関係は簡単には作れるものではなく、たくさんの時間を共に過ごすからこそ生まれてくる物だと患者さまとの関わりで学ぶことができました。何かの技術を一緒にして生まれる信頼もありますが、共に同じ時間を過ごし、患者さまに寄り添ってできる信頼は固く何かで結ばれた強いものがあると、この患者さまで気づくことができました。これから長く働いていくなかで、限られた時間ではありますが、患者さまとたくさんの気持ちを共有して、信頼を築ける看護をしてきたいと思えます。また、私がこのように思うことができたきっかけである患者さまにはずっと感謝し続けていき、このように気づくことができた自分に誇りを持ち、看護をしていきたいです。

心安らぐ空間へどうぞ 患者さま図書室のご案内



当院2階の耳鼻咽喉科外来となり「患者さま図書室」があります。
「患者さまのために、誰でも入れる癒しの空間を作ろう」という目的で2009年11月に開設、今村病院分院図書委員長の西垂水と隆医師(救急・総合内科)をはじめ、図書委員会メンバーにより運営されています。
約2800冊の蔵書の多くは、病院のご利用者や地域の方々など、大勢の皆様のご厚意により集められた寄贈図書が中心です。小さな空間ですが、新着図書、映画になった本、本屋大賞受賞作、季節の本のコーナーを設けて、本の紹介をしています。本を選ぶ時の参考に、人気本のブックリストもあります。たくさんの方々の思いがこもった図書に加え、毎月10冊程度の図書を新着図書として加えられるようになりました。
ここでは時間を忘れ、病気のことを少々脇に置いて、ゆっくりと心安らかに過ごしてください。



患者さま図書室利用案内

開室 9:00~17:00
貸出 お一人5冊まで、2週間。どなたでもご利用いただけます。

患者さま図書室は、全国の皆様からの寄贈図書と、
今村病院分院の患者さまの温かいお気持ちであふれています。

NEW! 新しい寄贈図書

1月に、139冊の寄贈本をいただきました。とてもきれいな本ばかりです。
直木賞や本屋大賞の受賞作、人気の本がたくさんあります。ぜひ図書室に遊びに来てください。



■「一瞬の風になれ」(佐藤多佳子) 講談社 2007年本屋大賞、第28回吉川英治文学新人賞受賞作
サッカーに限界を感じた新二と、やる気のない天才スプリンター連。とくに強豪でもない春野台高校陸上部に入部した幼なじみの2人。それがすべての、始まりだった。思わず胸が熱くなる、とびきりの陸上青春小説。



■「夜行観覧車」(湊かなえ) 双葉社 2013年テレビドラマ化
父親が被害者で母親が加害者。高級住宅地に住むエリート一家で起きたセンセーショナルな事件。遺された子どもたちは、どのように生きていくのか。その家族と向かいに住む家族の視点から、事件の動機と真相が明らかになる。『告白』の著者が描く、衝撃の「家族」小説。

入院患者様の作品「犬と猫」



図書室からうれしいおはなし

昨年秋のある午後、大きなリュックを背負った男性の方が図書室を訪れました。「うわぁ、ここが図書室ですか。こんなふうになっているんですね!」。私が「外来患者さまですか?」とお尋ねすると「こういう者です」とリュックから1枚のはがきを出されました。そこにはこう書いてあります。「...ご寄贈ありがとうございます。今村病院分院。病院から寄贈者へのお礼のはがきでした。「福島から参りました。寄贈した本がどうなっているのかな...と思って」。なんと、福島県からはるる鹿児島まで、ご自分が寄贈された本がどうしているのかを見に来られたのです。大切な本への深い愛情に、心が潤うようでした。
しばらくお話をし、お帰りは正面玄関までお見送りしました。西日の強い夕刻、その男性の背中を眺めながら、旅のご無事を祈りました。

患者さま図書室 獅子目真穂

研修医 VOICE



「医学と医療は違う」を実感

湯地 美佳 Yuji Mika

医師という職業に従事し2年目、ようやく卵にひびが入ったくらいの経験値ですが、僥越ながら投稿させていただくこととなりました。大学で6年間医学を勉強し、国家資格を得て2年間の初期研修を行うという流れで、研修医は初めて医療に触れます。

よく、大学の講義で「医学と医療は違う」と強調されているのですが、実際に研修させていただくと改めてその言葉の意味が理解できます。教科書上はこれこれ、そういう症状があれば、この診断でこう

治療を行いなさい、ということになっていても、まずその訴えを正確に問診することです。たとえば、多くの方が経験する「片頭痛」ですが、症状がひどい方ではまず症状を聞き出すのもままならない。そのような状態の方に、あせて「拍動性の頭痛ですか?」とつらつら医療用語をつかって聞いてしまったことがあります。拍動性頭痛は、典型的な片頭痛に認める症状で、脈にあわせてズキンズキンと波打つように痛む頭痛をさします。医療関係の方や片頭痛を幾度も経験されている方ならご存知のことかもしれませんが、困った質問をしてしまったものだなあと今でも汗顔の至りです。このように、まだまだ未熟な私ですが、温かい目で見守ってくださると幸いです。



実際の臨床に触れてみて

武田 陽子 Takeda Youko

平成26年4月から研修させていただいてもうすぐ1年を迎えます。初期研修期間2年間のうち半分が過ぎようとしています。日々が充実しており、時が過ぎるのをとても速く感じますし、1日1日を大切に過ごしていきたいと思います。

これまで、とにかく慣れることに必死でしたが、先生方や病棟のスタッフの方々が、基本的なことから丁寧に教えてくださり、また、患者さんの状態や病態を理解するために、日々勉強することが必要である

ことを痛感しました。

学生から社会人となったことを自覚し、より一層気を引き締めて患者さんと向き合っていきたいと思います。

残り1年しかない研修生活ですが、多くの先生方やスタッフの方、患者さんから学ばせて頂き、医師の基本的な知識や経験を築いていきたいと思っています。

待ち時間を短縮!

自動精算機が便利です



会計窓口の待ち時間短縮を目指して、今村病院分院は自動精算機を導入しています。平日の稼働時間は1台が午前9時から午後4時まで、もう1台が午前9時から午前0時までとなっています。現在、午前9時30分より午後1時30分までは自動精算機の担当として案内係を置いています。その他の時間帯は会計と受付の職員が気を配りながらの運用となっています。

操作でお困りのことなどございましたら、近くの職員に気軽にお声かけください。

当院の1日平均外来患者数は481人(平成27年1月現在)で、1日平均退院患者数が15名ほどになっています。会計待ち時間調査の結果、平成24年は平均12分、平成25年の調査では平均15分と、長い方へスライドしていたため、待ち時間を短縮できるよう自動精算機を導入しました。メリットとして、待ち時間短縮のほか、支払いの分散化で会計窓口の混雑を緩和でき、さらに受付番号がモニターに掲示されることで患者様が会計窓口の呼び出しを待つためにトイレや電話等の離席に気を遣わずに済むことなどがあります。

現在会計はポスレジ2台、自動精算機2台で対応しています。自動精算機導入当初は利用率が外来患者数の5割ほどでしたが、本稼働から9カ月経た現在は約8割の患者様に自動精算機をご利用いただいています。会計待ち時間調査を7月下旬に実施したところ平均9分で、導入前より6分短縮される結果となりました。これからもポスレジとバランス良くご利用頂き、待ち時間の短縮を目指してまいります。

編集後記

新病院建築に向けて多くの委員会が立ち上がり、建物だけでなく病院の質的にも改善していこうと職員一同努めているところである。広報委員会にも新たなメンバーが加わり、今回初めての広報誌となった。誰に向けて何を伝えたいのか?一方的に情報を流すだけでなく、受け取り側にどのようなメリットがあるのか?を毎回考えながら編集をしている。一方で作り手の我々もまた、病院という組織の奥深さを認識できる有意義な時間にもなっている。

今村病院分院広報委員会 委員長 西垂水と隆

表紙の絵について (日本画 30号(91cm×73cm))

日本脳卒中協会の卓上カレンダーに私の絵を使いたいとの依頼を受け、全ての絵に桜島を配して、1月から12月までの12枚の絵を描いた中の一枚です。この絵は3月用の絵で、桜島を背景に夕暮れ時のしだれ梅を描いたものです。

公益財団法人慈愛会 会長 納 光弘

七波クリニック が移転しました。

「ニシムタスカイマーケット鴨池」内 3月診療開始

糖尿病専門外来の七波クリニックが平成27年3月、鹿児島市真砂本町のニシムタスカイマーケット鴨池(4月オープン予定)に移転し、診療を開始しました。

七波クリニックは平成18年1月に開設され、定期通院される患者さまを中心に診療を行ってまいりました。このたび新病院の建築計画(本誌P2をご参照ください)に伴い、移転の運びとなりました。

オープニングセレモニーが平成27年3月3日に開かれ、公益財団法人慈愛会の今村英仁理事長は「定期通院される患者さまにとって利便性の高いクリニックになりました。慈愛会糖尿病センター(今村病院内)の鎌田哲郎センター長にも引き続きサポートをお願いしたい。これまでの実績に自信を持って新しいクリニックを守り育てていきましょう」とスタッフを激励しました。七波クリニックの鮫島久子院長は「糖尿病の患者さまのために、クリニック職員一同、もっと修練を重ねていなくては、と思います」と抱負を述べました。



テープカットに臨む
(右から)七波クリニック鮫島院長、今村理事長、
今村病院分院宇都宮院長

糖尿病は食事療法、運動療法を基本とし、患者さまは日常生活の中でさまざまな自己判断を必要とされます。七波クリニックでは、再診当日までの患者さまの生活を一緒に振り返り、療養上の問題点を見つけ、個々の生活に合わせた運動方法や生活指導などを行っています。自己管理のささやかな手助けとなるよう、スタッフ一同努めて参ります。

患者さまへのサービス向上の観点から、今村病院分院—七波クリニック間の送迎を行っております。ぜひご利用ください。



今後とも
どうぞよろしく
おねがいします

スタッフ一同

○ 受付時間(完全予約制)

ご予約は
お電話で **099-284-0610**

午前 / 8:30~11:30
午後 / 14:30~16:30

※祝日は休診です

	月	火	水	木	金	土	日
午前	●	●	●	●	●	●	休診
午後	休診	●	●	●	休診	休診	休診

糖尿病専門外来 七波クリニック

〒890-0067 鹿児島市真砂本町51-1
ニシムタスカイマーケット鴨池内テナント
TEL.099-284-0610 FAX.099-251-5255



○ 今村病院分院のご案内

救急内科 24時間365日診療しています。

専門外来 予約制となっております。事前にお電話で予約をお取りください。※日曜日・祝日は休診

電話予約 **099-251-2221** (代表)

ご予約受付時間 ※日・祝日を除く
【月曜日~金曜日】14時~17時 【土曜日】9時~12時



公益財団法人 慈愛会
今村病院分院

〒890-0064 鹿児島市鴨池新町11番23号
TEL.099-251-2221 FAX.099-250-6181
HP <http://www.jiaikai.or.jp/imamura-bunin/>